

第4学年2組 図画工作科学習指導案

授業者 池本佐知子
図工室

1 題材名 こいけちゃんたちのおうち ～湖山池の素材から考える～

2 授業構成

(1) 題材の価値と魅力

図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」である。

本題材は、小学校学習指導要領解説図画工作科編の第3学年及び第4学年の内容「表現」と「鑑賞」領域において次のように位置づけられている。

A 表現

- (2) ーア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけて表すこと
- イ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと
- ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと

B 鑑賞

- (1) ーア 自分たちの作品や身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさやおもしろさを感じ取ること
- イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどがわかること

ここでは、身近な環境をテーマに、体験したことから感じたことや想像したことをもとに表したいことを発想し、表し方を考えて表すことが主な活動である。ただものをつくって終了するのではなく、自らが表したものと友だちの表したものをもとにさらにイメージを広げ、テーマについての自分とは異なった友だちの発想や、気づいていなかった自らの作品の新しい魅力について味わうことで、ものづくりのおもしろさを感じ、豊かな情操を育むことをめざしている。

中学年になると、学習で扱う素材や用具の種類は増え、表現の幅も広がる。しかし中には、活用できるものが多すぎるため、「何をつくったらよいのか」「どの材料、技法を使うのか」選択に悩む子どもが出てくる。自分の表したいことに合わせ、素材や用具を選択することができるようになるためには、感覚を働かせ、自分なりの確かなイメージをもつことが重要となる。そこで、このような力をつけるために、テーマに「湖山池」を取り上げ、湖山池に住む住人を立体として制作する題材を設定した。本題材を通して大切にしたいことは、「自分なりの確かなイメージをもつこと」「そのイメージを作品やことばで表出し合うこと」である。本校の西に位置し、教室の窓から眺めることもできる湖山池は、子どもたちにとってなじみ深く身近な環境のひとつであることから、テーマとしてイメージが持ちやすい。また、湖山池には、魅力ある素材が多く存在する。湖畔に生い茂る葦は、まっすぐ天に向けて育ち、子どもの力で簡単に折れる脆さと、繊維を抜くことで歪曲するしなやかさを兼ね備えている。さらに、軽量で持ち運びがしやすく、伐採も工作用のはさみで可能なので子どもでも採取しやすい。葦のそばには、葛が群生している。直線的な葦と対照的に、蔦科の植物である葛は曲線を表現するのに適している。水産資源として近年漁が再開されたヤマトシジミは、貝殻が小さく加工しやすい。身近で手に入りやすく、4年生でも加工がしやすい素材であることと、自然素材ならではの画一ではない形のおもしろさを活用できたり、様々な接続方法を考えたりすることが期待できる題材であると考えられる。

(2) めざす子どもの姿について

本学級には、ものづくりが好きで、楽しみながら活動に参加する子どもが多い。しかし、ある程度形ができあがってくるとそれで満足し、集中がとぎれてしまう子どもがいる。同時につくりたいものはあるがそれが明確にしないまま最後まで活動を進めていくうちに、作品が「つくりたいもの」から「つくれたもの」になってしまう子どももいた。これには、自分なりの作品に対するイメージの弱さが起因していると考えられる。そこで本題材では、素材収集から子どもたち自身の手によって行わせ、採取体験や収集体験を通して自然素材への愛着を持たせる。同時に素材収集を通して素材に触れる機会を多く持つことを通して、子どもたちは素材の特徴を感じ取る。素材と触れ合う機会を増やすことで、曖昧だった自分の作品の形、色、加工方法が具体化してイメージできるだろう。素材への理解は、制作場面での工夫につながる。子どもたちは試行錯誤を繰り返して素材を加工していくが、素材の特徴をつかんだ上で加工方法を考えることに意味がある。ヤマトシジミの殻は小さいがある程度重量があるので接着は糊よりもボンドが適しているなど、根拠を持たせながら活動に向かうようようにする。また、どうしたら葦がうまくまとまったのか、丈夫な接続ができたのかなど友だち有効だった方法を話し合わせ、困ったことを相談したりアドバイスしたりできるような態度を期待したい。

(3) 本時に向けた教材研究

本題材は「湖山池」をテーマに、そこに住む住人を制作していく。本学級の子どもたちは、昨年度総合的な学習の時間で「湖山池を調べよう～ようこそ遊覧船『ふぞく丸』へ」で湖山池をテーマに学習した。現地に足を運び、環境、歴史、産業など様々な視点で調べ学習をしている。その中で、湖山池のゆるキャラ「こいけちゃん」と出会った。本単元は導入として、「こいけちゃんの友だちをつくろう」と投げかけ、湖山池を表す住人をイメージしやすくする。「こいけちゃん」の風貌自体が池、青島、魚、湖山長者の昔話などを表しており、子どもたちにとっても親しみやすいだろう。次に、昨年度調べたことを振り返ることで、湖山池特有の自然や環境を思い出しやすくする。子どもたちは昨年度、青島に行って探検したり、湖山池で釣りをしたりして、湖山池の自然を体感している。動植物に目を向けさせることで、素材に対して親近感を持たせたい。また、校舎のすぐそばにあるという地理的な利点を活かし、実際に湖山池に行き、材料を探す活動をする。湖山池の湖畔には、図画工作の素材として魅力的な葦や葛が自生している。管理している鳥取県に許可をもらい、子どもたち自身で葦や葛を採取させ、素材に親しみを持たせる。子どもたちは湖山池の自然を実際に見たり、風を肌で感じ、湖水に触れることで、湖山池の住人に対するイメージはふくらむだろう。水門が開かれ、ヤマトシジミや魚の漁が再開されてから湖のゴミは減少したが、湖畔には未だ多少存在する。主にペットボトルやプラスチックのゴミであるが、4年生の総合的な学習のテーマでもある「環境」を結び合わせながら、採取していきたい。そしてそのゴミも、湖山池を構成するものとして、素材のひとつに加え、制作に使いたい。湖山池の住人の制作は、湖山池で採取した素材をもとに行うが、なぜその素材を選んだか、形や色の意味は、など湖山池というテーマを意識し、作品と対話させながら制作していく。

粘土を表現題材として扱うことについては、①可塑性があり、やり直しが容易にできる。②同じ粘土でも、粘土に含まれる水分量でかたさが変わるので、様々な感触を感じたり、表現したりすることができる。という利点がある。子どもたちはこれまで、油粘土、土粘土など粘土を扱う題材に親しんできた。2年生では、ヘラだけでなくクッキーの成形型をつかった制作を行い、平面の粘土を組み合わせていくおもしろさを味わった。3年生では、搔き出しベラ・切り糸を使い、道具を使った切り口からイメージを広げる活動を行った。4年生では、どべで接着し、ひもから立体へつなぎあわせる制作を体験した。本題材では紙粘土を扱うが、既習のことを活用したり、新たな方法を見つけ出したりすることを期待している。自分のイメージを表現するため繰り返し試し、見つけたおもしろい表現を友だちと共有していくことで、技能の体得と同時にものづくりのおもしろさを体感させたい。

葦や葛の加工・固定については本来ならば針金とペンチを使うだろうが、4年生という発達段階を考慮し、今回は固定には園芸用針金を使用する。ビニールや紙で覆われているため危険も少なく、工作用はさみで切断できる。また、長さや色も様々な種類があるのが魅力である。葦や葛は木材に

比べ、比較的軽量であるため、子どもの力でもペンチを使わずねじるだけで園芸用針金で十分固定できる。昨今、ユニバーサルデザインのマジックテープやホックなど簡単に固定できる商品が増えたため、日常生活で結ぶ、ねじるなどの固定の仕方を体験したことがない子どもたちが増えてきた。実際に針金を使うとき、結んで固定しようとする子どもも存在する。本題材で「ねじってしめる」という固定方法を体験することは、これからの生活にも意味があるものだと考える。

本単元の後半には、鑑賞をもとにした湖山池のジオラマ制作を仕組むことで、二段階の表現活動に取り組むことができる。前半の活動が、湖山池からイメージする住人を制作するという個人としての表現活動であることに対し、後半は友だちと作品を見合ってそれぞれのイメージを語り合うことで影響を受け合い、さらにイメージを深化させたり広げたりして湖山池のジオラマ作りに取り組むことができるようにする。題材前半で制作した「こいけちゃんの友だち」略して「こいけちゃんず」たちの鑑賞で、友だちに自分の作品の意図と根拠を語り、「こいけちゃんず」を通して湖山池に対するイメージをふくらませ、図工室を湖山池に見立て、「こいけちゃんず」がいそうな湖山池の風景を、ジオラマとして制作していく。それは個人で制作していてもよいし、鑑賞で共通点が多い作品なら協同で制作していくことも可能とする。また、つくりながら交流し合い、ジオラマがくっついていく可能性もある。それは、「こいけちゃんず」から受け取るイメージによって様々だと考えられるので、表現活動への形態の制限は行わないようにしたい。

(4) 題材の目標

- 湖山池からそこに住む住人を想像し、身边材の特徴を生かしながら楽しんでつくることができる。
- 友だちや自分の作品から湖山池の住人の住まいを想像して友だちと話し合い、作品にあったジオラマをつくることができる。

(6) 学習計画と評価について (全9時間) (本時 7 / 9時間)

次	時	学習内容	評価規準
第一次	第1時	・湖山池について話しあい，どんなこいけちゃんの友だちにするか考える。 ・つくりたい「こいけちゃんの友だち」の材料や制作方法を考える。	発想・構想① 【発言・ワークシート】
	第2～4時	・こいけちゃんの友だちをつくる。	関・意・態① 【行動観察・ワークシート】 技能① 【行動観察・ワークシート】
第二次	第1時	・互いの作品を鑑賞する。	鑑賞① 【発言・ワークシート】
	第2時	・作品が湖山池のどんなところにいるか友だちと話しあい，材料や制作方法を考える。	発想・構想② 【行動観察・ワークシート】
	第3・4時	・ジオラマをつくる。 (本時 7 / 9時間目)	関・意・態② 【行動観察・ワークシート】 技能② 【行動観察・ワークシート】
	第5時	・ジオラマを鑑賞する。	鑑賞② 【発言・ワークシート】

造形への 関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①素材と進んで触れ合い，楽しみながら活動しようとしている。 ②「こいけちゃんの友だち」とジオラマの組み合わせを楽しみながら活動しようとしている。	①湖山池について知っていることから「こいけちゃんの友だち」の形，色などイメージをふくらませ，つくりたいものにあった材料や，加工法を考えている。 ②自分の作品や友だちの作品の形，色などからイメージをふくらませ，作品にふさわしいジオラマの風景を考えている。	①紙粘土や身近材の特徴を生かしながら，作品に合った形，色，接合を工夫してつくっている。 ②作品の設置の仕方やジオラマ内の設置物を工夫している。	①友だちの作品から湖山池の何を表現したのか想像し，話しあっている。 ②作品やジオラマのテーマとの関連について話しあい，よさやおもしろさに気づき，友だちに伝えている。

3 本時について

(1) 本時目標

○「こいけちゃんの友だち」とジオラマの組み合わせを楽しみながら，作品の設置の仕方やジオラマ内の設置物を工夫してつくることができる。

(2) 準備

子ども：はさみ，立体作品

教師：土粘土，自然素材，園芸用針金，グルーガン，湖山池等の写真

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援 ◎評価)

学 習 活 動	教師の意図・支援
<p>1 本時のめあてを知り,自分たちの作品がいる場所について話しあう。</p> <p>①こいけちゃんずがいる場所のイメージを話しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚がいたから水の中がいい。 ・水辺で遊んでいそう。 <p>②どんな材料の組み合わせ方や接合の仕方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水はビニールがいいかな。 ・水辺にもたくさん葦が生えていたけどどう使おう。 ・木は裏から釘で打ったらきちんととまるよ。 	<p>○こいけちゃんずがいる場所をイメージし,彼らがそこで何をしているかを話しあうことで,場所を決める根拠とする。</p> <p>◆黒板に湖山池の代表的な場所の写真を貼り,なかなかイメージが持てない子どもの手がかりとする。</p> <p>○いままで体験してきた接着の方法を思い出させ,どれがふさわしいか話しあわせる。</p> <p>◆金槌, グルーガンなど実物を展示し,接着の方法が具体的にイメージできるようにする。</p> <p>◇木の枝, 葦などの自然物やビニールなどの人工物の材料を用意し, テーブルに移動させて自分たちの作品とおいて見て, イメージに合うか確かめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>こいけちゃんずにあうおうちを, 材料やつなぎ方に工夫してつくろう。</p> </div>
<p>3 こいけちゃんたちのおうちをつくる。</p>	<p>◇湖山池や関係する動植物, 昨年度の総合的な学習の時間の調べ学習の様子などの写真を掲示しておき, イメージを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>◇道具は作業棚に仕分けしておき, 自由に使えるようにする。</p> <p>◇道具の使い方を確かめられるよう, 使い方の図解を各道具のそばに掲示しておく。</p> <p>◇接続の仕方などそれぞれの工夫を取り上げ, 紹介することによってそれぞれの制作の参考にできるようにする。</p> <p>◇お試しコーナー・材料コーナーは, 自由に使って試させ, 制作の参考になるようにする。</p> <p>◎素材と立体作品の組み合わせを楽しみながら, 作品の設置の仕方やジオラマの設置物を工夫してつくることができる。</p>
<p>4 ふりかえりをする。</p>	<p>4 本時の内容について話し合い, 次時以降の活動の計画を立てる。</p>